



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル：CASBEE大阪みらい（新築） I使用評価ソフト：「CASBEE大阪みらい 新築」2024年版 (v.1.0.2)

1-1 建物概要		1-2 外観
建物名称	大阪市立九条南小学校	
建設地	西区九条南2丁目	
建物用途	小学校	
建築主	大阪市長	
設計者	大阪市都市整備局企画部	
竣工年	2029年6月 予定	
構造/階数	RC造 / 地上4階	
敷地面積	8104.09 m ²	
建築面積	1240.46 m ²	
延床面積	3345.63 m ²	

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

B+
BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	ロンスイト	ロオフサイト
①参照値	100%	0%	0%	0%	0%
②建築物の取組み	82%	0%	0%	0%	0%
③上記+②以外の オンサイト手法	82%	0%	0%	0%	0%
④上記+ オフサイト手法	82%	0%	0%	0%	0%

このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC排出量の目安で示したものです。
④は参考として運用分をBEI+で表示しています。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

項目	スコア
音環境	2.4
温熱環境	2.0
光・視環境	3.6
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

項目	スコア
機能性	3.3
耐用性・信頼性	2.5
対応性・更新性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.6

項目	スコア
生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	1.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

項目	スコア
建物外皮の熱負荷	4.3
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.2
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

項目	スコア
水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.9
汚染物質回避	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

項目	スコア
地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 本増築工事は生徒数増加に伴う校舎増築と、老朽化に伴う体育館の建替え工事を行う。生徒が健康かつ安全に学習できるように教室等を計画し、LED照明等の採用により省エネルギー化にも配慮している。		その他 特に無し
Q1 室内環境 常時利用する教室に関して、外壁断熱を行い、空調換気についても最低限の環境を満足させている。庇とカーテンの併用にてグレアの調整が可能。F☆☆☆☆品の建材を使用し、24時間換気を行う事で常に健康的な室内環境を維持する。	Q2 サービス性能 施設基準に応じた部屋の広さとし、収納等を確保している。トイレ全てにバリアフリートイレを併設し障がいをもつ生徒に配慮している。教室は天井を高くし窓も大きくすることで圧迫感がなくゆとりのある空間で学習ができる。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存建築物と同等の高さとして調和を図り、周辺への圧迫感を抑制する建物形態としている。また柱梁で凹凸を作り、窓や庇等を設けることで圧迫感のある単調な壁面にならないようにしている。
LR1 エネルギー 外壁や屋根に断熱を設けることで外皮性能への配慮をしている。各教室等には大きく窓を設けることで自然光が入るようにしている。LED照明等の省エネルギー機器も採用。	LR2 資源・マテリアル 発生土はできる限り再利用とし、また既設屋内運動場の撤去等により発生するコンクリートは再生砕石として利用する等配慮している。	LR3 敷地外環境 省エネ法の基準を満たし、地球温暖化への配慮をしている。また既設の周辺環境を損なわないよう、ごみ置場や駐輪場、管理車両の駐車スペース等を計画した。雨水貯留槽を設けることでゲリラ豪雨等への周辺配慮もしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.2

ラベル表示



環境性能		評価点
(1)CO2削減		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮	3.7
配慮事項		

環境性能		評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策		2.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能		概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出	2.0
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上	2.0
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善	3.0
配慮事項		

環境性能		評価点
(3)建物の断熱性		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制	4.3
配慮事項		

環境性能		評価点
(4)エネルギー削減		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化	4.2
配慮事項		

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合
--------	----

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4（相当）以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 住宅部分の一次エネルギー消費量については、BEIが1.0以下であること
※ 非住宅部分の一次エネルギー消費量については、「建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（以下、「省令」という）」第1条第1項第1号もしくは、省令第1条第1項第3号に掲げる基準以下であること。

外皮性能	住宅部分（品確法等級）	非住宅部分[BPI][BPI _m]
	- (相当)	0.87
一次エネルギー消費量	住宅部分[BEI]	非住宅部分[BEI][BEI _m]
	-	0.45